

1 沿革

第1節 柏崎のあゆみ

本市は、三階節で名高い米山を始め、黒姫山、八石山、西山連峰の山々の懷に抱かれ、豊かな恵みを受けつつ、福浦八景や砂丘地など変化に富んだ4.2kmの海岸線から佐渡島を望む風光明媚な地方都市である。

歴史的には、縄文遺跡、国指定下谷地遺跡などの弥生遺跡、古代製鉄遺跡などが次々に発見され、人々の生活・生産活動の跡が発掘されている。文献の上では、古代三島郡の郡衙が置かれたこと、「大同類従方」に恵奈山藁の見えることなどから、古代にもすでに中央に知られていたことがわかる。

また、「日本書紀」によれば、天智天皇即位7年（西暦668年）秋7月の条に「越の国から燃ゆる水燃ゆる土が朝廷に献上された」と記されており、この献上地こそ西山町妙法寺草生水の献上場とされている。

中世、鎌倉時代には、佐橋庄、宇河庄、比角庄など現在の地名の元となる地名も見え、謡曲「柏崎」でも知られる柏崎勝長の伝説から、日本海有数の港であったことが裏付けられる。

室町時代になると、「回国雑記」、「北国紀行」、「梅花無尽蔵」などの中には柏崎を通り、旅をした中央の人達による、柏崎の繁栄を記した記事も見える。

室町の末期から戦国時代にかけては、琵琶島城の宇佐見氏、上条城の上条氏などとともに、上杉謙信の旗下として厩橋（前橋）城にまで出兵した北条毛利氏の事跡が光る。この毛利氏は越後毛利といわれ、大江広元の孫にあたり、毛利元就で知られる西国毛利氏の主家である。

江戸時代に入ると、北国街道の宿場町、港など交通の要衝であったこと、新田開発が盛んに行われ米の生産量も上がったこと、小千谷、十日町方面で生産された縮布を加工し、京阪、関東地方の富裕層へ行商したことなどにより、地域経済は豊かになり、縮商人による中央からの文化の移入も行われた。現在、コレクションの町といわれる精神的風土は、この時築かれたものである。

明治の初めには柏崎県が置かれ、県庁の所在地となった。明治になると数度の大火に見舞われたが、その都度街並みを再建するとともに、土蔵造りの火防建築が建てられ、まちの新たな再生が行われた。

明治30（1897）年代には、宮川油田を始め、周辺地帯から石油が噴出したことにより、製油会社の設立が相次ぎ、石油や資材の運搬により町は空前の活況を呈した。この成果が今日の機械金属工業発展の基礎となり、関連企業の設立もあいまって、近代産業都市へと脱皮することに貢献したものである。

昭和15（1940）年、新潟県で5番目、全国で162番目の「市」として発足し、平成27（2015）年には市制施行75周年を迎えた。発足以来、近隣町村を合併し、現在は柏崎刈羽圏域の中心都市の役割を果たしている。道路、鉄道、港湾等の整備促進によって交通の要衝としての地位を確立し、原子力発電所の建設とそれに伴う地域振興整備、北陸自動車道の全線開通、田尻工業団地の造成、ソフトパークの整備、新潟産業大学・新潟工科大学の4年制大学の開学、東本町まちづくり事業、学園まちづくり事業など、大規模なプロジェクトの推進により、本市を取り巻く地域環境は大きく飛躍し、変貌している。

平成12（2000）年には地方分権一括法が施行され、それに伴って平成15（2003）年3月に「柏崎市市民参加のまちづくり条例」を制定し、市民と行政が協働して、活力と潤いに満ちた都市づくりを推進している。

平成17（2005）年5月1日には刈羽郡高柳町及び同郡西山町と合併し、新たな取組を進めている。

平成19（2007）年7月16日には未曾有の大災害となった「新潟県中越沖地震」が発生し、市内全域が甚大な被害を受けたが、全国からの温かい支援と市民の助け合いなどにより、震災からの復旧・復興は早いスピードで進み、震災前以上の活力あるまちに向け、歩みを続けている。

平成29（2017）年度からは、「柏崎市第五次総合計画」をまちづくりの新たな指針として、「力強く 心地よいまち」を将来都市像に掲げ、更なる発展を目指している。

第2節 市域の変遷

本市は、明治22(1889)年4月1日町制を施行以来、大正13(1924)年8月大洲村及び下宿村を、同15(1926)年9月に比角村、その後、昭和3(1928)年12月に枇杷島村、同15(1940)年4月に鯨波村を合併し、同15(1940)年7月1日に新潟県で5番目、全国で162番目の市制を施行した。その後、更に近隣14町村を編入し、平成17(2005)年5月1日には高柳町、西山町との合併を経て今日に至っている。

市制施行後における合併と旧市町村別面積

(単位：km²)

合併・編入年月日	合併・編入市町村	合併編入等面積	総面積
昭和15(1940).7.1	市制施行		
昭和23(1948).11.1	西中通村の一部(悪田)を編入	0.81	
昭和25(1950).4.1	上米山村を合併	24.94	
昭和26(1951).4.1	西中通村の大字春日を柏崎に編入 柏崎市の大字比角村の一部を西中通村へ分譲	—	51.93
昭和26(1951).4.1	北鯖石村の一部(長浜・新田畑・田塚)を編入	1.29	
昭和29(1954).4.1	西中通村を合併	8.99	
昭和29(1954).7.5	荒浜村を合併	7.87	
昭和30(1955).2.1	北鯖石村・田尻村・高田村を合併	44.39	
昭和31(1956).9.30	中通村の一部(大字矢田、吉井、曾地、花田、 曾地新田、飯塚、小黒須、五十土、成成沢)を編入	15.94	113.97
昭和31(1956).12.19	米山村を合併	28.67	
昭和32(1957).1.1	米山村の一部を柿崎町へ分譲	△13.10	
昭和32(1957).4.1	高浜町を合併	5.93	
昭和32(1957).4.1	黒姫村(上条村)の一部(大字上条、宮之窪、 山口、佐水、芋川、古町、小田山新田)を編入	14.70	
昭和32(1957).7.5	中鯖石村・南鯖石村を合併	36.92	207.63
昭和43(1968).11.1	黒姫村を合併	65.88	215.64
昭和44(1969).11.11	公有水面(番神)埋立	0.04	
昭和46(1971).5.1	北条町を合併	44.78	281.56
昭和50(1975).4	公有水面埋立	0.03	313.27
昭和54(1979).12	公有水面埋立	0.02	313.29
昭和55(1980).10.1	公有水面埋立	0.02	313.31
昭和59(1984).10.1	公有水面埋立	0.03	313.34
昭和60(1985).10.1	公有水面埋立	0.18	313.52
昭和62(1987).10.1	公有水面埋立	0.01	313.53
平成元(1989).4.1	柿崎町の一部(上輪・高畔・蕨野)を編入	3.64	317.17
平成2(1990).10.1	国土地理院面積修正に伴う調整	0.13	317.30
平成3(1991).10.1	国土地理院面積修正	1.95	319.25
平成8(1996).10.1	公有水面埋立	0.04	319.29
平成17(2005).5.1	高柳町・西山町を合併	123.41	442.70
平成26(2014).10.1	国土地理院面積修正	△0.67	442.03

【資料：企画政策課(国勢調査等)】

※米山村の一部柿崎町へ分譲した△13.10は、昭和48(1973)年に国土地理院の面積修正による。